

児玉 康比古 議員



一問一答方式

- ① 鹿野川ダム
- ② 避難勧告・避難指示等の発令及び伝達等のあり方
- ③ 自主防災活動費

鹿野川ダムについて

問 今年度末で鹿野川ダム改造工事も完成し、トンネル洪水吐きからの放流によりダム湖の水位が4・7メートル下がり、洪水調整容量も約1・5倍となる。

平成30年7月豪雨では、甚大な被害が発生したが、多くの住民の方々は、なぜ事前放流ができなかったのか今も疑問を持ったままである。

まずは、検証の場の取りまとめの説明会を行い、今後の安全対策をど

のように改善するか市民に示し安心を与える説明会を一日も早く開催すべきと思うが、ダム操作等の説明会をいつ行う予定なのか。また、何カ所で開催予定なのか。

答

本市としては、野村ダム・鹿野川ダムの操作に関わる情報提供等に関する検証等の場の取りまとめ等の説明会と、鹿野川ダム操作規則変更に関する説明会は関連性がありま

すので、2つを合わせた形でできるだけ早い段階で開催することとし、お願いしたいと考えています。

なお、説明の方法や場所等については、現在国、県と調整していますので、決まりましたら、議会をはじめ市民の皆様にお知らせしたいと考えています。

避難勧告・避難指示等の発令及び伝達等のあり方について

問

防災マップの中の洪水ハザードマップの地域別はどのような区分となっているのか。計画規模及び想定最大規模に分けるマップとなっているが、その内容についてどのようなものなのか。

また、国土交通省から示された内容で作成し、地域ごとの要望や意見は入れないと前回の答弁であったが、地域の意見も取り入れたハザードマップでないかと役に立たないと思っている。いつごろ市民に配布するのか。

答

今回作成するハザードマップは、市民防災読本「統合型防災マップ」として、浸水想定区域図や土砂災害危険箇所図だけでなく、気象情報や避難情報、各種災害対策などの説明や津波浸水想定、地震震度想定、原子力災害避難区域図についても掲載し、いざ起こるかもしれないさまざまな災害に対し事前に備えていただくことを目的として作成します。

今回のハザードマップは、市全域を9つの図郭に分け、土砂災害危険箇所や肱川流域の2日間総雨量が340ミリの大雨により肱川が増水し、堤防決壊が起こった際、どの程度浸水するかを示した浸水想定を示しすることとしています。この防災読本は5月末ごろに市民の皆様に対しお配りする予定です。

自主防災活動費について

問

当初予算に5地区への災害・避難カード作成事業補助金が計上されている。三善地区の災害・避難カードモデル事業を全地域に展開することは大変なことであり、一日も早くお願いしたいと思っています。しかし、膨大な時間をかけ、小単位地区ごとの話し合いや説明会を実施しなければ十分な浸透は困難と思われるが、各地域でどのように推進していくのか。

答

来年度より実施する災害避難カード事業については、補助金として支出し、どのような内容を盛り込むのか、地域割りをどのようにするかなど、三善地区で開催された地元のワークショップのようにそれぞれの地域でご検討いただき、自らの手で作成し、普及いただきたいと考えています。

自主防災組織に対する取り組みについては、地区防災計画の策定、推進とあわせ、自分の地域は自分たちで守る取り組みを行うことができるように、市としても支援していきたいと考えています。